

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2571500194		
法人名	株式会社 ドリエジョ		
事業所名	ゆめさとグループホーム		
所在地	滋賀県蒲生郡日野町西大路大字井上434-2		
自己評価作成日	平成27年7月5日	評価結果市町村受理日	平成27年8月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432番地 平和堂和邇店2階		
訪問調査日	平成27年7月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、デイサービス・福祉用具・看護師との連携を図り入居者様のケアに取り組んでいる。日々の生活の中で、入居者様の個々の状況に応じたケアを心掛けている。その中で入居者様と共に楽しく過ごせる環境作りを行なっている。医療面では嘱託医・看護師と24時間体制で対応している。認知症の専門医や地域の医療機関とも連携し、指示を仰ぎケアに取り組んでいる。スタッフの勤務体制も年齢的・身体的・精神的負担とならないよう出来る限り工夫し、楽しく働ける体制作りに努めている。入居者様と日々接する中で、業務優先・リスク回避に捉われず、本人様の思いを大切に尊重し共に楽しむことを大切にしている。家族様に対しても月に1度、状況を手紙で報告し、面会に来て頂いた際に説明している。家族様の参加して頂ける行事等を実施して、共に入居者様を支えて頂ける信頼関係が築けるように取り組んでいる。今後も、入居者様・家族様・その他関係機関と関係を深くし、よりよいケアを提供できるよう、体制も見直し、スタッフの意識向上に努め、サービス向上に繋げていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して11年目の事業所である。毎日の生活の中で利用者の希望や出来ることを確認しながら「主役は利用者」を常に意識した介護を行っている。いままで利用者が大事にしてきた場所や人との繋がりを大切にし、地域行事に参加し、小学校や幼稚園との交流に取り組んでいる。消防救急訓練に参加し、地域ボランティア受け入れなどに協力することで、利用者が社会参加する喜びを感じることが出来るように努力している。家族アンケートでも概ね高い評価で、特に職員の心温まるケアに対する感謝や喜びの声が多く、家族の信頼と満足を得ている。医療連携体制加算事業所として重度化した場合にも対応できる事業所方針を持ち、ターミナルケアや看取りケアも多く経験している。利用者は緑豊かな環境の中、ゆったりと楽しく暮らしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

【ユニット名：あじさい】

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着サービスの意義を踏まえた上で、理念をつくっている。会議・日々の業務の中で共有し、理念に基づくケアの実施に努めている。	理念をパンフレットに明示、玄関にも掲示し会議や日々の業務の中で振り返っている。年末には理念の理解を深めるためのミーティングを行い、スタッフ間で意見交換し合うなどケアに生かされるように努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域での買い物・外食、又は地域の行事への参加も積極的に行っており、毎年恒例の行事にも参加している。事業所の行事にも参加していただけるよう取り組んでいる。	自治会に加入している。幼稚園、小学校との交流、文化祭や夏祭り、運動会など地域行事への参加や地域ボランティアの受け入れも行っている。地域住民が面会に来た際、認知症の相談を受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で行なわれる認知症の研修会等、依頼があれば、説明をしに行っている。また、施設内の見学・説明等も随時受け付け、対応を行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度実施しており、グループホームの現状報告を行い、意見・地域の情報等を頂いている。地域の方、家族代表の方にも参加して頂き、日々のサービスに活かしている。	運営推進会議は2か月に1回開催しているが、事業所からの報告が中心となり、参加者と意見交換し課題について提言を貰い検討するという点で不十分である。	事前に討議テーマを周知するなど意見を聞き出せるように取り組むことで、会議内容が更に充実することを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、グループホームの状況報告・情報交換を行なっている。また、入居対象となる方の相談や入居検討等を行い必要に応じ協力をして頂けるような体制作りをしている。	日野町介護支援課と連携し運営推進会議の参加は勿論のこと事業所運営や入居受け入れについて情報交換をしている。町からの依頼で認知症講演会を公民館で開催したり、社会福祉協議会の行事の協力をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、拘束を行なうことでどのような影響が入居者様にできるか等ミーティング、日々の業務の中で話し合いながら拘束のないケアに取り組んでいる。また、本人様の意思等を聞き、スタッフが一緒に行動をしている。	日中は玄関・居室の施錠はしていない。外出を希望する場合はよく話を聴きながら、スタッフが一緒に付き添っている。身体拘束についての内部研修を行い、マニュアル、緊急時の連絡網を作成している。言葉かけについては、常にスタッフ同士で注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の種類や要因等について学ぶ機会を設け、認知症、個々の性格等を理解し、日々の業務の中でスタッフ同士が気をつけながら心あるケアに努めている。また、入居者様の様子も注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全員が理解できていない部分もあるが、必要に応じ、責任者等と相談し、対応を行なっている。また、スタッフ間で共有できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時・解約時は十分に説明を行い、家族の方・入居者様の不安を聞き対応をしている。入居後に起こる可能性のあるリスク等についても事前に説明を行い、理解・納得が得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、家族交流会等により、家族の方の意見を聞いている。また、運営推進会議にも代表の方に参加して頂き、意見を頂いている。家族の方が意見を言いやすいように、日頃より相談・報告をするよう心掛けている。	家族会が年に2回あり、毎回10人位参加がある。主に面会時や手紙、電話、運営推進会議等で意見を聞いている。家族の意見によりデイと共同であった事業所の入口を専用にする事で、気軽に面会に来れるようになった事例がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のミーティング・リーダー会議の実施により、スタッフの意見・提案を聞いている。また、日々の業務の中でもスタッフ同士で話す機会も多く、必要に応じ、担当者で話し合いを行なっている。	日々の業務や月1回のミーティング時に意見や提案を汲み取っている。管理者は日頃から話しやすいようにスタッフ一人ひとりに声掛けし、いつでも意見や提案を受け入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の査定を担当者が行い、賞与により還元している。また、スタッフの状況に応じ勤務体制の変更・配置等配慮をしている。各自、向上心を持てるよう工夫をしている。他からの評価に応じ昇進等も行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の能力に応じた仕事の提供を行ない、状況把握に努めている。また、内部研修により知識の共有、個々に応じた外部研修への参加を行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に行なわれるグループホーム部会へスタッフが順番に参加し、交流を行なっている。また、同グループ内での他施設への研修の参加、地域の他事業所との交流会等積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接を行う際に本人様、家族様が困っていること、不安に思っていることを聞き、入居後の生活に対する要望の確認、安心して頂けるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族様と話し、不安や要望に耳を傾けるようにしている。できる限り要望に対応をしていけるように取り組んでいる。また、面会に来られた際にも状態等を報告し、信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時の話し合い、担当ケアマネージャーからの情報提供、本人様・家族様の要望等を聞き、その時々に応じたサービスの提供を検討している。各々の除湯今日に合わせたサービスを選んで頂けるよう心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の場で、本人様を中心にできることを手伝って頂きながら、お互いに助け合い、日々の生活を過ごして頂けるよう支援をしている。生活の知恵透、教えて頂くことも多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	様々な家庭環境があることを理解した上で、家族様参加型の行事の実施により、共に過ごして頂く時間を大切にしている。また、外出・介助等も部分的に協力をして頂き、共に支える関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時等に懐かしい方と再会され話がはずむこともある。また、地域の行事への参加、なじみの場所への外出も行っている。デイより、知り合いの方が合いに来られることもありゆっくりして頂けるよう配慮している。	同一建物内のデイや隣の事業所の友人・知人に会いに行ったり、地域の行事や行きつけの美容院へ行っている。図書館での本の貸し借りや手紙、電話の支援をしている。墓参り等には家族に支援を求めている。来訪者には面会場所の希望を聞くなど配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格、病状により、トラブルとなることも多いが、個々の性格、能力を把握し、良い関係が保てるように支援している。それが出来ることをしながら、支えあえるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の本人様・家族様の要望に応じ相談・情報交換を行っている。入院された方は、時折お見舞いに行き、様子をみている。また、家族様がゆめさどに來られることもあり、その都度対応をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中から、本人様の希望など思いを把握するように努めている。また、本人様より思いを伝えられない方は、家族様より本人様の思いを聞き、その人らしい生活の支援に努めている。	毎日「今日は何をする？」等の声をかけ、希望を聞くようにしている。意思表示が困難な場合は、表情や毎日の観察の中で嫌がる事や好むことなどを読み取るよう工夫をしケース記録に残し共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面会時に家族様・担当者より生活歴等の情報を得ながら、本人様らしい生活が継続できるように、スタッフ間で情報の共有を行い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1ユニット9人で状況の把握はしやすい。個々の介護・ケース記録などに状態の記入を行い、申し送りにより状態の把握に努めている。日々の生活の中で本人様のペースでの生活をして頂けるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様・家族様の意見・状況等、月に一度のミーティングにて話し合い、本人様の状況に応じたケアプランの作成を行っている。	ケース記録、介護記録と月1回のミーティングでの意見、本人や家族、医師、看護師等の意見を参考にして3カ月毎にケアプランを見直し家族に署名確認印を貰っている。状態が変化した際はその都度作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録・業務日誌・申し送りノート等を活用している。内容により色を変え記入し、特記事項等わかりやすくしている。また、一か月毎に担当者が様子をまとめ、話し合い、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービス・福祉用具等とも連携し、その時々に応じたサービスの実施に努めている。あまた、必要に応じ、ボランティアの方時も協力をして頂き、柔軟に対応できるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方の受け入れや、消防・救命講習の実施、小学校・保育園との交流を行っている。また、公民館での行事等、運営推進会議から情報を得て、出来る限り参加し、楽しみを持って頂けるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様・家族様の希望により、かかりつけ医を継続している方もおられる。また、家族様の協力のもと、受診に対応をしている。嘱託医とは、24時間の連絡体制をとり、往診等の協力も得ている。	かかりつけ医の受診は4名であり、家族が事業所作成の情報提供書を持参して受診するが、無理な時は事業所が同行している。受診結果は家族、しよくたいく等共有している。嘱託医による往診は月に1回である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の状況に応じ、看護師に報告し、医師への報告・受診等速やかに対応できる体制をとっている。また、受診時に日々の様子を担当者がまとめ、報告を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、家族様と共に医師より説明を聞き、退院後も速やかに対応が出来るよう努めている。入院中もこまめに様子を聞きに行き、家族様・医療関係者からの情報収集、リハビリの見学等もしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の同意書を頂き、説明を行っている。また、本人様の状態に変化がみられた際には、家族様と話し合いの場を設け、以降の確認、今後の対応について相談し、速やかに対応が出来るよう努めている。	重度化や終末期についての方針を契約書に明記しており、入居時に「重度化した場合における入居者の対応の同意書」を家族に説明し同意確認印を得ている。ターミナルケアのマニュアル作成や事業所内部での勉強会も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な救命講習の実施、マニュアルの作成により、急変時の対応を行っている。また、看護師・医師とも24時間の連絡体制をとっている。急変時に冷静に対応できるよう、今後も継続し講習等を行っていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練(昼間・夜間想定)の実施、消火器具の取り扱い等の説明を行っている。運営推進会議等にて、地域の方、区長さんへ協力して頂けるよう呼びかけ等を行っている	年に2回の避難訓練(1回は夜間想定)を行っているが、消防署の立ち会いと地域住民の参加協力は得られていない。災害対策についての内部研修は年2回行っている。	避難訓練は消防署と地域住民にも参加してもらい、安全のための協力体制を強化できるよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の生活の中で、個々の性格に応じた対応を行なっている。言葉かけなど気になる事については、スタッフ間で注意し、意識して関わりをもてるように努めている。	言葉かけや対応については利用者の尊厳を守るべく特に注意をし、気になる言動はその場で各々注意し合っている。研修は法人内研修や職員会議の場でも事例を挙げて実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様一人ひとりの思いに耳を傾けるようにしている。本人様が意思決定が出来るように働きかけ、決定が難しい方は、思いを考え可能な限り自己決定できるように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフの配置により、入居者様の全ての希望に沿った支援は難しい部分もあるが、出来る限り本人様のペースで過ごして頂けるように配慮し支援を行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的に、衣類は本人様の好まれる物を持ってきて頂き、自分で選び着て頂いている。行事の際には、希望によりお化粧をして頂いている。また、美容師の資格を持ったスタッフにより定期的に散髪を実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け・洗物等出来る事は一緒にしてもらい、食事を楽しんでもらえるように支援している。また、好き嫌い等によりメニューの差し替え等、その人に応じた食事形態への変更等行なっている。	配食サービスを利用し、温めて利用者と共に盛り付け、片付けをしている。おやつや季節毎の行事では利用者の希望を考慮し鍋やバーベキューと一緒に作って食べたり、レストランや回転ずし等の外食も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量等記録し、摂取量の低下・体重の減少等により、食事形態の変更、食事量の変更等の対応を行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は出来ていないが、個々の能力に応じた口腔ケアの実施を行なっている。介助がいる方に関しては、口腔内をガーゼ等にてケアしている。入れ歯も定期的に洗浄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により個々の排泄パターンを把握し、個々に応じた声かけ・介助を行なっている。また、本人様の状況により出来るだけトイレにて排泄して頂けるようにケアを行なっている。	布と紙パンツの利用者は半々であるが、チェックシートや必要に応じて夜間ポータブルトイレを活用し、失禁を減らす工夫をしている。トイレを嫌がる利用者には誘導の声のかけ方も工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的に牛乳・ヨーグルトの提供を行ない、水分補給も促している。また、適度に動いて頂けるように対応し便秘の方に対しては、腹部マッサージ等を行い、状況に応じ看護師に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様同士の関係により、ある程度の入浴日等は決めている。入浴に関しては、各々のペースを大切にしている。一般浴での入浴が困難な方に関しては、デイの特浴を活用し、可能な限り入浴して頂いている。	入浴は個浴で週に3~4回の午後であるが、希望があればその都度対応している。季節のゆず湯や好みの入浴剤などで楽しんでいる。入浴を嫌がる人には誘い方を工夫し、重度の人はデイの特浴を利用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的に就寝時間は決めておらず、居室にて自由に過ごしておられる方もあり、好きな時間に休んで頂いている。また、日中に昼寝をされている方もあり、室温調整等心掛け心地よく過ごして頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬内容のファイルを作成し、ワーカー室におき、スタッフが内容を把握できるようにしている。また、個々のケース記録にも服薬内容を入れ、変更があれば申し送りをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じ、出来る事をしてもらっている。毎日日課として動いておられる方もある。入居者様同士でトラブルとなる事もある為、配慮しつつ、楽しく過ごして頂けるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望にすぐに対応することは、難しい部分もあるが、希望を聞き、外出・外食等の機会を設けている。場所により家族の方の協力も得ており、地域の行事にも積極的に参加している。	天気の良い日には週に1~2回事業所の周辺を歩いたり、日向ぼっこや一緒に体操をしている。週2回は買い物にも行く。散歩や外出場所は利用者と共に考え、家族や時折ボランティアの協力も得ながら地域の行事、初詣、紅葉狩り、花見等にも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失等もある為、基本的にはワーカースペースで預かり、訪問販売、外出時に使用して頂いている。お金を持っておられる方もありますが、使用し残金が少なくなると被害妄想につながる方もあるので、残金の把握を行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っておられた方もあったが、家族様に電話をされる頻度が非常に多く、現在は預かっている。本人様の希望に応じ、電話等の対応を行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中、良く過ごされる共用スペースは、なじみの方と安全に過ごして頂けるように配慮している。また、季節に応じた飾りを一緒に作り、季節感を感じて頂きながら、心地よく過ごして頂けるように配慮している。	食堂、廊下には利用者の希望を取り入れて一緒に作った折り紙や季節の貼り絵、写真のコラージュ等を飾り、日めくりカレンダーと年・月もわかりやすいように大きく壁に表示してある。共用空間は清潔に保たれ、時々利用者と共に掃除している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースには、ソファ等も配置しており、ソファ・居間と思いつきの場所で過ごしておられる。また、入居者様同士トラブルとならないよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的な家具は設置しているが、認知症の軽度の方は、その中で本人様が過ごしやすいような居室になっている。重度の方は、物がある事で落ち着かれない方もある為、その方に応じ対応をしている。	エアコン、洗面所、家具は設置しており、小物や写真の持ち込みは自由で本人好みの部屋づくりをしている。掃除や季節の衣替え、部屋の模様替えは利用者が出来なければ職員も一緒に行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室前に表札の設置、トイレ等の表示を行い、混乱なく生活して頂けるように工夫している。建物内部も出来るだけ自由に動いて頂けるよう安全面においても配慮している。		

自己評価および外部評価結果

【ユニット名：しゃくなげ】

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着サービスの意義を踏まえた上で、理念をつくっている。会議・日々の業務の中で共有し、理念に基づくケアの実施に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域での買い物・外食、又は地域の行事への参加も積極的に行っており、毎年恒例の行事にも参加している。事業所の行事にも参加していただけるよう取り組んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で行なわれる認知症の研修会等、依頼があれば、説明をしに行っている。また、施設内の見学・説明等も随時受け付け、対応を行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度実施しており、グループホームの現状報告を行い、意見・地域の情報等を頂いている。地域の方、家族代表の方にも参加して頂き、日々のサービスに活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、グループホームの状況報告・情報交換を行なっている。また、入居対象となる方の相談や入居検討等を行い必要に応じ協力をして頂けるような体制作りをしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、拘束を行なうことでどのような影響が入居者様に与えるか等ミーティング、日々の業務の中で話し合いながら拘束のないケアに取り組んでいる。また、本人様の意思等を聞き、スタッフが一緒に行動をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の種類や要因等について学ぶ機会を設け、認知症、個々の性格等を理解し、日々の業務の中でスタッフ同士が気をつけながら心あるケアに努めている。また、入居者様の様子も注意し見ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全員が理解できていない部分もあるが、必要に応じ、責任者等と相談し、対応を行なっている。また、スタッフ間で共有できるように勤めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時・解約時は十分に説明を行い、家族の方・入居者様の不安を聞き対応をしている。入居後に起こる可能性のあるリスク等についても事前に説明を行い、理解・納得が得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、家族交流会等により、家族の方の意見を聞いている。また、運営推進会議にも代表の方に参加して頂き、意見を頂いている。家族の方が意見を言いやすいように、日頃より相談・報告をするよう心掛けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のミーティング・リーダー会議の実施により、スタッフの意見・提案を聞いている。また、日々の業務の中でもスタッフ同士で話す機会も多く、必要に応じ、担当者で話し合いを行なっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の査定を担当者が行い、賞与により還元している。また、スタッフの状況に応じ勤務体制の変更・配置等配慮をしている。各自、向上心を持てるよう工夫をしている。他からの評価に応じ昇進等も行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の能力に応じた仕事の提供を行ない、状況把握に努めている。また、内部研修により知識の共有、個々に応じた外部研修への参加を行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に行なわれるグループホーム部会へスタッフが順番に参加し、交流を行なっている。また、同グループ内での他施設への研修の参加、地域の他事業所との交流会等積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接を行う際に本人様、家族様が困っていること、不安に思っていることを聞き、入居後の生活に対する要望の確認、安心して頂けるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族様と話し、不安や要望に耳を傾けるようにしている。できる限り要望に対応をしていけるように取り組んでいる。また、面会に来られた際にも状態等を報告し、信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時の話し合い、担当ケアマネージャーからの情報提供、本人様・家族様の要望等を聞き、その時々に応じたサービスの提供を検討している。各々の除湯今日に合わせたサービスを選んで頂けるよう心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の場で、本人様を中心にできることを手伝って頂きながら、お互いに助け合い、日々の生活を過ごして頂けるよう支援をしている。生活の知恵透、教えて頂くことも多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	様々な家庭環境があることを理解した上で、家族様参加型の行事の実施により、共に過ごして頂く時間を大切にしている。また、外出・介助等も部分的に協力して頂き、共に支える関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時等に懐かしい方と再会され話がはずむこともある。また、地域の行事への参加、なじみの場所への外出も行っている。デイより、知り合いの方が合いに来られることもありゆっくりして頂けるよう配慮している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格、病状により、トラブルとなることも多いが、個々の性格、能力を把握し、良い関係が保てるように支援している。それぞれが出来ることをしながら、支えあえるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の本人様・家族様の要望に応じ相談・情報交換を行っている。入院された方は、時折お見舞いに行き、様子をみている。また、家族様がゆめさとに來られることもあり、その都度対応をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中から、本人様の希望など思いを把握するように努めている。また、本人様より思いを伝えられない方は、家族様より本人様の思いを聞き、その人らしい生活の支援に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接時に家族様・担当者より生活歴等の情報を得ながら、本人様らしい生活が継続できるように、スタッフ間で情報の共有を行い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1ユニット9人で状況の把握はしやすい。個々の介護・ケース記録などに状態の記入を行い、申し送り等により状態の把握に努めている。また、日々の生活の中で本人様のペースでの生活して頂けるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様・家族様の意見・状況等、月に一度のミーティングにて話し合い、本人様の状況に応じたケアプランの作成を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録・業務日誌・申し送りノート等を活用している。内容により色を変え記入し、特記事項等わかりやすくしている。また、一か月毎に担当者が様子をまとめ、話し合い、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービス・福祉用具等とも連携し、その時々に応じたサービスの実施に努めている。あまた、必要に応じ、ボランティアの方時も協力をして頂き、柔軟に対応できるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方の受け入れや、消防・救命講習の実施、小学校・保育園との交流を行っている。また、公民館での行事等、運営推進会議から情報を得て出来る限り参加し、楽しみを持って頂けるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様・家族様の希望により、かかりつけ医を継続している方もおられる。また、家族様の協力のもと、受診に対応をしている。嘱託医とは、24時間の連絡体制をとり、往診等の協力も得ている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の状況に応じ、看護師に報告し、医師への報告・受診等速やかに対応できる体制をとっている。また、受診時に日々の様子を担当者がまとめ、報告を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、家族様と共に医師より説明を聞き、退院後も速やかに対応出来るよう努めている。入院中もこまめに様子を聞きに行き、家族様・医療関係者からの情報収集、リハビリの見学等もしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の同意書を頂き、説明を行っている。また、本人様の状態に変化がみられた際には、家族様と話し合いの場を設け、以降の確認、今後の対応について相談し、速やかに対応出来るよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な救命講習の実施、マニュアルの作成により、急変時の対応を行っている。また、看護師・医師とも24時間の連絡体制をとっている。急変時に冷静に対応できるよう、今後も継続し講習等を行っていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練(昼間・夜間想定)の実施、消火器具の取り扱い等の説明を行っている。運営推進会議等にて、地域の方、区長さんへ協力して頂けるよう呼びかけ等を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活の中で、本人様の状態に応じた対応を行なっている。大事にされること等の把握を行い言葉かけ等注意している。また、介助の必要な方が多い為、介助時の声かけ、自尊心等にも気をつけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中から本人様の思いに耳を傾け、思いに沿ったサービス提供を心掛けている。また、自己決定が難しい方もおられ、その方々に応じた対応を行なっている。家族の方からも本人様の思いを聞くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフの配置により、全ての入居者様の希望に沿った生活の提供は難しい部分もあるが、基本的には、本人様の気分を優先し、ゆったりと過ごして頂けるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には、衣類は本人様の好まれる物を持ってきて頂いている。外出時等は、いつもと違う服を着て頂く等配慮している。また、服を脱がれる方もある為、脱がれても下着に見えないよう気をつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け・洗物など出来る事は一緒にして頂き、食事を楽しんで頂けるように支援している。また、準備等ができない方もおられる為、盛り付け・食器等も工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を記録し、摂取量の低下・体重の減少等により食事形態・提供する量を変更、個々に応じた食事提供を心掛けている。また、食事摂取が困難となられた方に対して本人様が好まれる物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は出来ていないが、個々の能力に応じた口腔ケアを実施している。自身で行えない方には、ガーゼにて口腔内のケアを行なっている。入れ歯に関しても、定期的に洗浄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により個々の排泄パターンを把握し個々に応じた誘導・介助をおこなっている。また、本人様の状況により、出来るだけトイレにて排泄して頂けるようにケアを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的に牛乳・ヨーグルト等の提供・身体を動かして頂く等行ない、水分補給も促している。また、個々の状態に応じ、定期的にヤクルト等を購入し飲んで頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の状況により、ある程度の時間等は決めているが、本人様のペースを尊重し、実施している。一般浴での入浴が困難な方は、デイの特浴を活用し、出来る限り入浴して頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には、就寝時間は決めていないが、認知症状等により、他の方に影響がでる方もある為、本人様の状況に応じ、就寝介助を行なっている。個々の状態に応じ、その方のタイミングで休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬内容のファイルを作成し、ワーカー室に置き、スタッフが内容を把握出来るようにしている。また、担当者により服薬内容の確認を行なっている。変更があれば、申し送りをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じ、出来る事をしてもらっている。毎日、日課として動いておられる方もある。入居者様同士でトラブルとなる事も有る為、配慮しつつ、楽しく過ごして頂けるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望にすぐに対応することは難しい部分もあるが、希望を聞き、外出・外食等の機会を設けている。場所により家族の方の協力も得ており、地域の行事にも積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理が難しい方が多い為、基本的にはワーカー室で預かり、訪問販売、外出時に使用して頂いている。部分的にお金を持っておられる方もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様からの電話に出られる事もあり、本人様が希望される場合には、状況に応じ対応をしている。家族の方にと手書きを書かれる場合もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中良く過ごされる共用スペースは、なじみの方と安全に過ごして頂けるように配慮している。飾り付け等、季節を感じて頂けるよう配慮し、清潔になるよう心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースには、ソファ等も配置しており、なじみの方と思い思いの場所で過ごして頂けるよう本人様の落ち着ける空間作りに勤めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的な家具は、設置しているが、個々のなじみの物を持ってきて頂き、落ち着いて過ごして頂ける空間作りに努めている。認知症状に応じ、落ち着いて頂ける居室作りをおこなっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室前に表札、トイレ等の表示を行い、混乱なく過ごして頂けるよう工夫をしている。本人様の状況に応じ、安全の為に職員が見守りを行なうようにはしている。		

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の内容の充実	事前に会議のテーマを設定し、参加者からの意見を出してもらいやすいように取り組み、会議内容の充実を図る	・自前に会議のテーマを決め、参加者に周知してもらう ・意見が出しやすい会議の運営に努める	12ヶ月
2	35	消防署・地域住民との協力体制の強化	避難訓練に消防署・地域住民の方にも参加して頂き、安全の為に協力体制を作る	・地域住民との緊急時の協力要請の依頼 ・消防署への避難訓練の指導の要請 ・地域住民・消防署と協力体制を作り、避難訓練を実施	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。